

## II. 肺動脈性肺高血圧症における凝固・線溶機能

### 2. ワルファリンは有用か？



岡山大学大学院医歯薬学総合研究科循環器内科学助教 赤木 達 (Akagi, Satoshi)

#### THROMBOSIS and Circulation

##### § 論文のポイント

- [1] 多くの治療法が開発された今日においても、ワルファリンによる抗凝固療法は治療法の1つとして行われている。
- [2] ニースシンポジウムの治療アルゴリズムで、ワルファリン治療は特発性/遺伝性 PAH および食欲抑制剤摂取に伴う PAH では“考慮すべき”，各種疾患に伴う PAH では“考慮しても良い”となっている。
- [3] COMPERA と呼ばれるレジストリでの抗凝固療法に関する解析からは、特発性 PAH での抗凝固療法を推奨する結果であった。
- [4] 膠原病に関連した PAH では、特発性 PAH と比べワルファリン使用による大出血の頻度が多い。またエポプロステノールとワルファリンの併用により肺泡出血が増加する。
- [5] ワルファリンが真に PAH の予後を改善しうる治療薬かを明らかにするためには、長期の無作為二重盲検試験が必要である。

##### § キーワード

ワルファリン／抗凝固療法／特異的肺高血圧治療薬／出血